

令和3年度 第2回小山市民フォーラム 議事録(定稿)

1. 日時 令和3年12月19日(日)14:00～17:00

2. 会場 小山市役所7階委員会室

3. 参加者等

(1) 運営委員

阿久津 治(委員長)、佐藤 佑子(副委員長)、海老沼 和彦、平野 明宏
戎 奈央、関口 絵里加

(2) 参加者 20名

(3) 小山市 浅野正富市長、雲井富雄副市長、坪野谷統勇総合政策部長、小林功総務部長、古川都市民生活部長、小林典子保健福祉部長、目徳有一産業観光部長、古川幸一建設水道部長、須郷幹雄都市整備部長、阿久津宣明教育部長

(4) 小山市事務局 篠原正シティプロモーション課長、柿崎泰延 シティプロモーション係長、松本卓、青木真央、福田直行、藤井優

4. テーマ

『私が』住みやすい小山にするためには～皆さんのご意見お待ちしております～

5. スケジュール

開会(司会)

市長あいさつ

運営委員長あいさつ

運営委員紹介、市出席者紹介

意見交換①教育・子育て②まちづくり③市民生活

～途中休憩(換気)～

閉会のあいさつ(市長)

閉会(司会)

6. 発言

○篠原シティプロモーション課長(司会)

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、只今から、令和3年度第2回小山市民フォーラムを開会いたします。私は、司会を務めますシティプロモーション課長の篠原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。前回9月25日の市民フォーラムは、栃木県に緊急事態宣言が出されており、オンラインでの開催でした。

本年度はじめての対面での開催となります。参加者の皆さまには、事務局側の運営に至らぬ点もありご迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒、進行に、ご協力いただきますようお願いいたします。

開会に当たりまして、浅野正富小山市長よりご挨拶を申し上げます。

○浅野市長(挨拶)

皆さんあらためましてこんにちは。

本日はお忙しい中、令和3年度 第2回小山市民フォーラムにご参加いただき、まことにありがとうございます。今、進行から申し上げましたとおり、前回オンラインでしたので、対面式は本年度はじめて、昨年度第1回の3月は対面でしたので、2回目の対面となります。

小山市民フォーラムをはじめ、試行錯誤で、運営委員の方と行っており、初回の時より実りある議論が出来ればと思っております。

今回のテーマは、『「私が」住みやすい小山にするためには？』です。皆様から事前にいただいたご意見をもとに、①「教育・子育て」、②「まちづくり」、③「市民生活」の3分野に分け、意見交換して参ります。

今まで、田園環境都市のまちづくり、駅周辺のまちづくり、まちづくり関連のテーマで行いました。今日もまちづくりですが、新しい分野でご意見いただくこととなります。いろんなご意見をいただけると期待しております。

11月22・23日に、駅周辺のまちづくりプランを都市整備部が進めていますが、市民の皆さんにワークショップに参加していただくということで、計4回ワークショップを開催いたしました。各回20～30名の方にご参加いただきましたが、活発な議論をしていただきまして、皆さん楽しそうに意見を交わされておりました。

こうやってワークショップとか、小山市民フォーラムで意見を交わすということが、楽しいこと、面白いこととなることが、望ましいことと思います。人に自分の意見を聴いてもらう、人の意見を聴ける、それで意見交換を重ねていくことは、みんなでまちを作っていく、市政を運営していくことにつながります。自分たちが主体的に関われることは、市民にとって楽しみになることが重要なことと考えています。

今日も、皆さんに楽しんで、面白がっていただくような、市民フォーラムにできればと思しますのでよろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

ありがとうございました。本日の参加者をご紹介します。本日は、30代から80代の25名の皆さまに参加いただいております。

それでは、運営委員として企画運営にご尽力いただいております6名の市民の方を代表して、阿久津委員長より挨拶をお願いします。

○阿久津運営委員長

みなさん、こんにちは。委員を代表してご挨拶いたします。阿久津と申します。本日市民フォーラム2回目ということで、前回オンライン、今回対面です。世の中は、コロナ禍の中で変化をしている。対面でできること久しぶりの気もします。時代の流れに対応できる能力というのを、皆さんで話あいながら、できること、できないことを、活発に楽しく、まちづくりをしていくのがいいのではないかと考えております。本日もあらかじめたくさんのご質問ありました。意外に我々も知らないことがあったり、行政の皆様も知らないことがあったり、たくさんありました。活発的なことをやっているのに私も知らないこともありましたし、こういう機会にみなさんの思いや考え方を聴きながら、まちづくりに取り組みたいと思っています。少し長い1日になりますが、今日は3つのテーマに分けておりますので、ぜひ最後までよろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

ありがとうございました。そのほかの運営委員様につきまして、ご紹介させていただきます。副委員長 佐藤 佑子(さとう ゆうこ)様、平野 明宏(ひらの あきひろ)様、戎 奈央(えびす なお)様、関口 絵里加(せきぐち えりか)様、海老沼 和彦(えびぬま かずひこ)様です。

続いて市側の出席者を紹介します。浅野正富市長、雲井富雄副市長、坪野谷総合政策部長、小林総務部長、古川市民生活部長、小林保健福祉部長、目徳産業観光部長、古川建設水道部長、須郷都市整備部長、阿久津教育部長、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の予定をご案内いたします。本日のテーマは、『「私が」住みやすい小山にするためには？』です。皆様から事前にいただき、①「教育・子育て」、②「まちづくり」、③「市民生活」の3つに分け、意見交換して参ります。

運営委員を進行役に、参加者の皆さまからテーマに関連するご意見をいただき、浅野市長からご意見をいただき、市側から補足説明やご意見をいただきます。最後にまとめを行います。

発言を希望される際は、挙手をお願いいたします。マイクについては、事務局側で操作いたしますので、お手元側の操作は不要です。お名前をフルネームでおっしゃってから、皆様に、1回はご発言いただくため、発言は2分以内でお願いいたします。事務局から残り1分ベル1回、30秒ベル2回、時間になりましたらベル3回を鳴らします。進行にご協力をお願いいたします。

それでは、ここからは運営委員の皆様に進行をお願いいたします。阿久津委員長よろしくお願いいたします。

①「教育・子育て」

○阿久津運営委員長

楽しく活発にいきたいと思います。テーマ3つに分けておりますが、「教育・子育て」50分、「まちづくり」60分、「市民生活」45分、時間等入れ替わるかもしれませんがご了承ください。たくさんのご意見いただいておりますが、全部触れられないこともあるかと思いますがご容赦ください。①「教育・子育て」について、意見の中から、まずは委員の方から、戎委員いかがですか。

○戎委員

みなさん、こんにちは。事前にご意見いただいた中から私が一つ取り上げたいのは、No.5の「動物公園をつくってほしい」というご意見についてです。

動物園を作ることはとても難しいので、民間になってしまうのですが「自然薯の里」と「いちごの里」では、小動物を飼っているの、こちらに足を運んでいただいて、飲食店を経営しておりますので、食事を重ねながら、子どもを連れて小動物と触れ合える施設があります。どなたか民間で経営したい方がいれば、運営することが可能なかと思いました。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。「教育子育て」について平野委員いかがでしょうか。

○平野委員

平野です。よろしくお願いいたします。私の方で、気になったのは学童問題です。

小山市に、今54ありますが、経営が保護者会経営、NPO 経営、私立保育園・幼稚園経営と、状況がまちまちです。

保護者が選ぶときに情報がない、直接そこに行って確認して、実際に入ってみないとわからない状況があります。そういったところが分かるようになればいいなと思いました。

○阿久津委員長

No.5の意見の方が欠席とのことですので、今の意見に対して、付け加えたりしたい方おりますでしょうか。

○参加者

動物園という形にはなっているのですが、私も動物を飼っています。自分の飼っている動物を遊びに連れていける場所、公園とか小山市には少ない印象が大きいです。

自分のペットを連れて遊べる場所が少ないですね。そういった間口が広がれば動物園を作らなくてもよいのではないかと、飼っているペットを連れていける場所があればいいのではと思いました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ドッグランは、小山市には小さいところ大きいところあります。なにか市長ありますか。

○浅野市長

確かに犬を散歩して公園に入れるかどうかについて、小山市内、禁止している公園が多いです。公園を管理していただいている団体の方で、糞の始末がきちんとしてもらえないことから、公園の中に犬を連れてくるのを禁止する公園が多いです。

利用者のマナーを徹底して、かならず糞の始末をしてもらおうということで、公園利用者に呼びかけをすることで、美しが丘の公園では犬を連れていくことが可能になっています。

どうして、公園内に犬を連れていけないのか、数多く市役所にも意見が寄せられていますので、徐々に調整をしながら、犬を公園に連れて散歩できるようにするという試みを進めているところです。

ペットを公園内に連れて散歩するという大事なことと、ドッグランについては、ペットと一緒に公園を利用出来る出来ないではなくて、犬を自由に走らせるようなドッグランが、公園利用等は別に必要というご意見もあります。民間のドッグラン経営しているところもありますので、自治体の中には公設のところもありますが、自治体・民間どのくらい利用しているのかも含めて検討中で、将来的にドッグランをどのように整備すべきかを、探しているところです。

小動物のふれあい、子どもにとって重要なことで、いろんな施設で、広く一般の方とは別に触れ合いさせている場所はあると思うので、その対応と、一般の方でどれだけニーズがあるのか、これから検討していきたいと思っています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ペットを飼っている方、たくさんいらっしゃいます。都市整備部長いかがですか。

○須郷都市整備部長

市長からもお話があったのですが、ドッグランと公園の散歩とは、皆さんから意見が多くありましたので、我々の方でもアンケート調査をさせていただいております。

環境課で犬の登録されている方にアンケートを出し、3割くらい回答いただいております。

我々も検討させていただいているのですが、ドッグランは民間事業者さんがおりますので、すぐには難しく継続的に調査して行こうと思っております。

公園の散歩については、小山市内、糞のことなどありますので、基本的には公園の散歩ご遠慮いただいている状況ではあるのですが、公園の管理をされている里親さんと相談しながら、話がついたところから試験的に解放していく方向で進めております。

ただ、併せて糞の始末とか悪ければ止めますともなりますので、マナー良く協力していただければ、今後、公園開放できる可能性があるということで、ご理解いただければと思います。

○阿久津運営委員長

ありがとうございます。民間でやるのもこれから大事なことと思います。たいへん貴重なご意見ありがとうございました

続いて、No.3のご意見の方いらっしゃいますか。ぜひ、思いを言っていただければ。

○参加者

市内から参りました。本日はよろしく願いいたします。

今、私が引っ越してきて、子供が小学1年生直前でこちらに、Uターン(引っ越し)してきて、3年半過ぎて、4年生になります。以前は、千葉県八千代市に住んでいたのですが、小山市とのギャップが非常にあります。

例えば、小学校の入学のタイミングで、学童保育の申し込みなどは、全て市で処理をされていて、小山市はすべての学童保育に保護者が自分でアクションを起こして、空きの確認等行うのですが、そういうのも、市が一括でやられていたので、やはり、学童の情報、見えてない待機児童、幼保無償化があったので、小学生以上の教育の情報が、小山市は非常に得にくいです。

幼保から無償で入った児童さんが多ければ、その分小学校行って、中学校行っとなりませので、ぜひきちんと、小学校、中学校に入った後の子どものアフタースクール事業ですとか、サポートをぜひお願いしたいと思っております。

○阿久津運営委員長

ありがとうございます。この前のワークショップでも同じような話がありました。今のご意見に対して、参加されている方でなにかございますか。

○参加者

市内から来ております。

学童の問題が、僕の知人でも受け入れ先がないと聞いています。もう一方の問題で、ALTの先生が来年度からシステムが変わるとうことで、もしかしたら職を失うかもしれないピンチの話聞いています。

そこで、学童と、何年も小山で頑張ってくれているALTの先生を、うまくマッチングができないか。ALTは、小学生に関わっていますから、民間企業への斡旋とか、民間で学童をやりたいと思っている方たちに対して、スタートアップの助成金を出して、そこにALTの先生を斡旋するようなやり方など、今後、英語教育も盛んになるのでいかがかなと思っています。以上です。

○阿久津運営委員長

ありがとうございます。お二人の話ありましたが、平野委員どうですか。

○平野委員

先ほど意見を出していただいた方にお聞きしたいのですが、千葉県では、市で学童を運営しているのでしょうか。

○参加者

すべてが自治体でやられているわけではなかったと思います。公共と民間で運営しています。千葉県の子育て支援会議に参加する会議があり、県や自治体レベルでそれぞれの施設の入所状況、保育園と同じように待機児童状況、待機児童は潜在的なニーズと、現実的この施設は空いているなどのニーズとギャップがあることは会議でも言われていました。

そのあたりの情報を自治体が把握していて、保護者が問い合わせ、申し込みをしたときには、保育園と同じように就労状況などの評価を得て、入所などの連絡をいただきました。最低限同じように市のほうでも情報共有をすることが重要と思っています。

○平野委員

ありがとうございます。保護者にしてみると、学童がどんな状況で運営しているのか、学童に入ってみると、保護者が、会長・会計など全部やらないといけない、指導員も探さないといけない、指導員も指導しないといけない、という学童もあります。

市でも把握はしていただいて、学童はこんな状況ですよと分かるよう行ってもらいたい気持ちがあります。

それ以外に、民間企業として学童を経営してくれる企業も必要ではと思いました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。仲間で学童を経営している方がいますが、学童だけだとどうしてもやっていけないところもあるので、塾とセットにしてやっているところもあります。

小学校のPTA会長をしていますが、学校の中で起きたことは学校、学校の外は保護者という形でやっています。保健福祉部長なにかありますか。

○小林保健福祉部長

ご意見ありがとうございます。学童について、なかなかご希望に沿えず、ご不便をおかけしております。

さきほど、千葉では、市で申請・利用調整を行っているとありましたが、小山市では公設指定管理者による運営が32か所、民設民営が22か所、自主運営・幼稚園保育園空き教室9か所、計63か所ございます。

いずれの学童も、申し込みの方法は各所へ申込み、利用調整していただいています。学童の情報については、新入児については、就学時検診の時に、学校ごとに学区にある学童のチラシをお配りして、説明会に参加していただいたり、市のホームページにて情報提供したりしています。

途中転入の方などは、わかりにくいなどのお話をいただいています。今のお話を聞いて、情

報開示の仕方を検討しないと思っています。

また、学童に入りにくいとのご意見をいただくことについては、保護者へのニーズ調査、児童数の推移等をもとに、5年ごとに整備計画を立てています。

7年前は児童が1,380人でしたが、今は約450人増えています。施設も7か所増やしていますが、現状は、学童に入りたい希望が増えています。

現整備計画では、来年1か所豊田地区に増やすのと、令和5年を目標に、城南地区にも増やす計画をしています。

その間対応するために、施設の面積・指導員の確保にもよりますが、定員を120%まで増やして受け入れていただいたり、空いている施設への送迎を事業者と調整して、できるだけ学童に入れるような取り組みを進めています。

運営者会について、保護者会運営などたいへんのご意見でしたが、ご苦労いただいております。最近では、公募により民間のNPOなどに切り替わるところもありますので、学童保護者会運営について、市の方にご相談いただければ、新たな運営形態に切り替えることも可能ですので、ご理解をお願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。これを解決することを、今日は目的とするわけではなく、いろんな意見、思っていること、行政がしていることを知ることが大事なことと思います。そのほかどなたかいらっしゃいますか。

○参加者

No.5の動物とのふれあいについて。災害が起きた場合に、避難所で、ペットについて。犬とか猫とかが苦手な人もいますが、行政としてはどうお考えでしょうか。

○小林総務部長

答えられる範囲で答えさせていただきます。過去にも東日本大震災等で、避難所の運営で、ペットの問題がおきております。

市民の方がいる中には連れ込むことはできないかと思いますが、施設の外側等で、受け入れる体制などとられてきました。

先ほどの公園の話で、犬・猫好きな方、普段使っている方で好まない方も当然いると思います。エリアの区分け等を考えていくことが必要かと、個人的には思います。

避難所の受け入れに関しても、可能な限り考えてはいると思いますが、これからの課題の一つかと思っています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。そのほか、ご意見あるかたいらっしゃいますか。

○参加者

学童の会長を以前経験して、保護者会運営ですが、会長ですと経営者、保護者であり、金銭面から指導員の手配等、民間法人にゆだねたいという相談をこども課にしました。

やはり、委託期間が3年間というしぼりがあり、その中で変えていくのが難しい。そのほか、

民間法人になると、日割り利用ができないなどがあります。小山市と協業で、放課後開放など、セキュリティなど難しいと思いますが、地域を含めて空いた小学校教室を利用して保育するなど、協業でやっていける方法はないかなと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○浅野市長

学童・保育所に関して、さきほど利用者が増えているとありました。待機児童減のため、定員増、施設数を増やしているが、足りない状況が続いています。

量的な面では対応しなければならない部分が先行しますので、情報一元化など手が回っていないのが現状と思います。

特に学童に関しては、指定管理者を保護者の会にお願いしているケースもある。保護者の方の負担が大きく、最近では保護者会が辞退するため、公募している。NPO 法人が応募してくる、それも地元ではなく県外からというケースもあります。

他の自治体では、大手が、10か所20か所、指定管理を受ければ応募するなどもあって、市もどういった形をお願いするのが、転機に差し掛かっている状況です。

保護者会の方にもご意見を聴く必要がありますが、お金の問題だけでなく、保護者が自らやる部分で専門的知識など負担しきれないのか。

今までは、保護者の方が運営した方がよいという方針でやってきたが、全部お任せすることも難しくなってきた。これからどう指定管理者を募集したらいいのか。最終的にどこまで整備したらいいのか見えてこない。かろうじて人口は増えているが、数年後には、いずれ減少していく中でどうすべきか。人口の問題とは別に需要が増えている。地域の偏在の問題もある。どうしても、学童は学校単位が基本である。難しい時期に来ているが、利用者と運営者の意見交換を重ねながら、良い形の整備ができればと思う。情報提供の部分は、やれるところは速やかに改善していきたいと思っています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。一つの案としては、コミュニティスクール、学校のまわり、地域の方を巻き込んで「ながら見守り」をしていただいて、保護者だけではなく、輪を広げて城南地区は取り組んでいる。まち全体で子どもたちを守っていければいいかなと思います。

○参加者

よろしくお願いたします。お囃子会をやっているが、後継者として小学生がきているが、中学生になると来なくなる。中学生になると部活中心の生活になり地域とのかかわりが無くなってきている。伝統文化をつないでいく、地域とのつながりをもつことは多感な時期に重要、部活中心の教育から広く目をもっといただいて、地域文化、文化の継承として必要だと思いません。

○阿久津委員長

後継者問題ですね。まちの中でも、受け継ぐ人が少なくなってきた、老舗があるが後継者が

いない。西口、駅前もその通りでということはありません。

○阿久津教育部長

中学生になると部活で忙しくなるという話がある。部活で地域とのつながりが無くなる。話は変わるが、先生方も部活動に時間が割かれており、働き方改革にもつながると思います。

今は、先生方が部活動を指導しているが、これからは、地元のOBの方などに指導していただいて先生方の負担を少なくするなど検討しています。

その中で、今よりも中学生が部活漬けになることも少なくなってくるのかとも考えています。すぐに改善されるとはお答えできませんが、この先検討してまいります。よろしく願いいたします。

○浅野市長

先日羽川地区のイルミネーションの点灯式がありまして、地元のお囃子が披露されていました。小学生と大人で太鼓をする人がいなく、小学生の時にやっていた中学生になった子が2年ぶりに参加されていました。

本来は、小学生と大人だけではなくて、中間の人たちがいてうまく引き継ぎができれば、望ましい。お囃子は学校ではなく地域でやっている。部活については、学校中心でやっている。

学校ですべて賄わなければいけないのかということ、スポーツ関係を地域の方が指導すると、一部の自治体では出ています。

中学生の課外活動を地域で賄えるようになると、スポーツだけではない伝統的なことについても、地域で調整ができると思うが、今は、部活は学校中心になっています。

どうしてもそこが部活中心になってしまう。これからの時代は、学校にすべてを任せるのではなく、課外活動について、地域でまかなっていかないと、学校の先生が、授業のほか仕事が多くて、教員のなりてがないくらいに、ハードなお仕事になっています。そこを変えていかなければいけない。自治体として、学校と地域が連携をとっていけるよう、方向性を目指せばいいなと思っています。

○参加者

私が中学生の時、地元のたたら獅子舞という伝統文化をやっていた。小学生くらいまでは、練習に行けるんですね。中学生になると祭りごとに出られない。親方が、小学校にたたら獅子舞を部活道として作ってくれた。それで人も入りお囃子を存続ができたので、そういうのもあればいいかなと思いました。

○参加者

コミュニティスクールについて。若木小学校エリアの交通指導員を毎日しています。不登校の子供がいる。小学校低学年でほとんど登校されてない。遅れているわけじゃないけれど、そうではないだろうと。兄は別なグループでいる。

私もコミュニティスクールについて聞いたが、ほとんどできてない。学校と地域と自治会とどうなっているか、きちんとやっていく必要がある。すべての中学校にコミュニティスクールを作ってもらいたいと思っています。

○阿久津委員長

貴重なご意見ありがとうございます。ほんとに地域の皆さんで支えていくしかないと思います。今後あり方、先生も限界がありますし、必要になってくると思います。

次のテーマに移ります。「まちづくり」です。まずは委員から、海老沼委員ご意見を。

②「まちづくり」

○海老沼委員

よろしくお願いいいたします。まちづくりということで、私は、生井地区というところに住んでいて、田んぼばかりで、農村地帯といわれるところです。農村地帯は小山市で結構あると思います。農村地帯の方々と市街地の方々と、うまくマッチング・共存できるような仕組みがないか、逆に皆様に聞きたいと思っています。

子育てでいろいろ出ていますが、特に学童保育などは考えたこともない、人がいない。当時小学校行っていた時は、なんとか学童保育使ってください、人がいないんでってことなんですよ。

小山市の中で、極端にいうと文化の違う地域なのですよね。そこが、うまく融合できるようなシステムがないか、皆様に聞きたいと思っています。私からは以上です。

○阿久津委員長

では、いまの意見に対して。

○参加者

先日のまちづくりワークショップにも参加させていただきました。実は、今まで子供と一緒に小山市に目を向けるということが少なかった。最近、子どもが理科の授業で、コウノトリなど学校で勉強しているようで、家で興味を持って私に聞くようになった。はじめて、コウノトリ交流館に行って、近くの農村や稲作を眺めながら、小山市ってこういう文化があると子供と話すようになりました。

自分自身、実家は小山市ですが、仕事で都心に通勤していて、Uターンしてきた。子供が小さい時から、そういうことを知るのすごく大事なことと思いました。小山の駅で、きちんと、コウノトリとか稲作が盛んなことを、若い方や子供、新幹線も通っていて、来訪者もすごく多いので、PRが出来たらいいのではないかと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。委員で大学生がいますので、どうでしょうか。

○関口委員

白鷗大学に通っております。駅前のキャンパスで勉強しておりますので、駅ナカで何かやっているか、興味を持って駅を利用しています。

子供たちが小山市に興味を持ってもらえるような、もっと地元を愛して将来も地元に貢献していきたいと思ってもらえるような催しを広く行えるといいかなと思っています。さきほどの教育分野にも関わりますが、私も塾講師のアルバイトをしております。世代が離れた人との関わりについて、今の若者は少し抵抗を持っている人が多いと感じています。

歳の離れた人と子どもたちを結ぶ中核的な役割として、我々大学生が子どもたちとの関わりの間に入ることによって、広い世代を繋ぎながら、より小山市を愛してもらえる子どもの育成につながるのではないかと感じております。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○参加者

私も23日のワークショップに出て今回こちらも出ました。駅で何か広められないか、23日のワークショップの時にも駅の活用をもっとできないかいっぱい出ました。コウノトリ、自然のことですか。サクラミチに特産物が紹介されていたり、デジタルサイネージでコウノトリ紹介されていますが、もっとうまく活用できないかと考えています。

小山駅から下野市の病院に通勤しているので、毎日駅を使っています。いろんな情報は確かに表示されているけど、デジタルサイネージも見るので、改札通るまでの10秒くらいしか見ないので、その間に何が映っているかによります。駅の活用は、ほんとに必要だと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。アピールとシェアの仕方が今後大事で、たくさんやっても意外に知られていないことが多くて、行政側も市民も一生懸命やろうと思っていますが、どうですか市長。

○浅野市長

小山は都市的な部分と、生井など、水田が広がっている地帯、美田地区、豊田地区、絹地区など農村集落の部分がかかなりあって、お互いがお互いの環境を良く分かっていない。

「小山」って言葉を使ってもそれぞれの住んでいるところで、イメージは微妙に違っていて、いろんな小山があるのだと知ることが大事と思う。今まで意識的にやってこなかったと思うのですが、小山の魅力と議論するときも、部分を知ったうえで、小山の魅力といったほうがよい。一部しか知らないとばらばらになる。小山はいろんな顔を持っていますので、お互い知り合うことが重要と思います。

今日、オブザーバーで風景社の廣瀬さん、蓑田さんお二人がいらっしゃっていて、菜の花サミットでも、生井地区の風土調査を発表されていました。田園環境都市小山といったときに、地域、地域がどういう成り立ちなのか、どういう市民の人が地元を感じているか、調査をしてもらっています。

今後、他の地域もできればいいと思っていますが、生井の方と聞き取りをしたり、アンケートをしたり、意識を調査されているので、海老沼さんがおっしゃったような、市街地に住んでいる方と、生井地区に住んでいる方の意識の差とか、参考になるお話が聞けたらとおもいます。

○傍聴者(蓑田氏)

風景社の蓑田と申します。突然で慌てております。

生井地区の600世帯の方に郵送でのアンケートを、自治会を通してお願いしまして、7割の回答がありました。

農業従事者の方、子育て中の方、地域の活動の中心の方、大先輩方にグループインタビューとして聞き取りも行いました。いろんな暮らしぶり、意識を今整理している最中です。

市街地で暮らしている方と、教育とか学童のことや過ごし方、親子関係、いろんなところで田園部と都市部は違いがあると思っています。

海老沼さんから、都市部と田園部が、今後どうやって助け合っていけるかお話がありました。そこが今後の課題になってくるのかなと。

学校と地域がどう助け合うかと同じで、田園地帯と都市部がどう助け合うか、局所的ではなく視野を広げて助け合いとか、支えあい課題となってくるのではないかと思います。

生井地区の調査はいずれ公表できると思います。

○阿久津委員長

ありがとうございました。

○参加者

今日のはじめて参加させていただきました。埼玉県から引っ越して、小山市に住んで10数年たちます。住みやすく不便の無い、いいまちと思っているが、行政の都市開発など駅周辺などホームページとかいろんな会に参加させてもらって聞く中で、駅周辺などどこかに特出して進められている気がして、田園部、郊外が置き去りにされているイメージが、普段生活して強く思っています。

コロナとかでも、災害とか震災とかもあると思うので、栃木県小山市というところで自然をもっと大切に、人間だけではなく、生き物と共生していかないと、この先、人と人との触れ合いも減っている中で、悪化する気がします。

僕たちは実際、小動物と触れ合う問題とかも、自分たち個人で、みんなで、出資して森を管理して、そこを切り開いてドッグランを作ろうとしている最中です。行政と共になにか相談に乗ってもらえたらすごくありがたいです。

○阿久津委員長

ありがとうございます。海老沼さんどうですか。

○海老沼委員

私の方から振って申し訳ないですが、様々な立場の方々の視点でいろんなことを聴くと、違った角度から物事を見られるので皆様の意見は参考にいたします。ありがとうございます。

○参加者

参考になればということですが、いま城東小学校と大谷北小、給食は黙食です。黙食の時間は、だまって同じ方向を見て食べていますが、かなりかわいそうと思って。

コミュニティ FM のおーラジに相談をして、まず城東小から始めたのですが、パーソナリティに10分くらい小山の情報を、お伝えする場を設けている。

本当は、それを中学生にやってほしいと思っている。中学生のほうが、受け取り方が敏感だし、週末のイベント、あるいは小山市のコウノトリがどう関係しているとか、ぜひやっていただきたいなと思います。おーラジではなく、大学生でもいいと思います。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ほかございますか。

○参加者

都市と田園をつなぐという意味では、おーバスがとても充実していると思っています。子供が2才なのですが、おーバスに乗るのが大好きです。よく駅前から、中久喜線とか羽川線とかいろいろ乗って。自分で車を運転するのと違っていろんな景色が見られて、小山ってこういうのがあるんだって、わかると思います。子供たちにおーバスを使った体験で、地域を知ってもらうとか、そんなことをできるといいと思いました。

先ほどのラジオの話、栃木のほうで、高校生と月一のラジオ、FM くららでやっています。結構好評なのです。地域を知ってそれを伝える場があるといいなと思います。それを、おーラジオで出来たらいいと思っています。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。都市整備部長なにかございますか。

○須郷都市整備部長

おーバス取り上げていただいてありがとうございました。情報発信について、難しい思っていて、伝わらない部分があり、もどかしさ感じています。

おーバスについて PR させていただきますと、小学校出前講座をやらせていただいています。おーバスを小学校に乗り付けて、切符を買って乗車体験などをやらせていただいています。評判です。

PR させていただくと、全線乗れて7割引の定期券を出しています。今までは、思季彩館でしか買えなかったのですが、スマホで、クレジットカードで買える仕組みができていますので、利用していただければと思います。追加の情報で回数券もスマホで買えるように開発もしていますので、できましたら利用いただけると便利です。

○坪野谷総合政策部長

さきほどから、参加者の皆様から、中学生に是非伝えたい、高校生に活躍していただいて等のご意見があった。小山市の情報をお話させていただきたい。

小山市でも、市民フォーラムを運営しているシティプロモーション課の方で、高校生まちづくりプロジェクト、高校生に集まっていただいて小山市の地域の魅力を発見してもらう、という活動をして、最終的な目標としておーラジオで出演して成果を発表していただく、こんな取り組みを今年度進めております。

我々、行政だけでは、今日の参加者の皆様から聞いた中でも、まだまだ気づけていない部分がいっぱいある。高校生の目で見たら、どんな地域の魅力の気づきがあるか等を掘りおこしながら、最終的におーラジオでどんな発表になるか楽しみにしていますが、その際には参加者の皆様にもぜひご案内させていただきます。

さきほどのさくら道のデジタルサイネージを含めて、使いこなせてないというご意見は分かる部分がございます。そういったところ含めて皆様への発信を頑張っていきたいと思っております。

ますので、よろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。産業観光部長からもなにかあれば。

○目徳産業観光部長

都市と田園という関係、郊外の田園地帯をターゲットにしているのが産業観光、特に農業を受け持っている部署になりますので、郊外で何がされているかと思うと農業と思います。農業が活動されているからこそ、美しい小山の田園風景が成り立っているのだと思います。

私も小山経験が浅いのですが、庁舎から農村風景が見えるのは西側だけですが、景色が大好きです。思川が見えて奥には広い田園地帯が見える。その田園風景を支えてくれているのは農家の皆さんと思っています。農業がなくなれば、田園風景がなくなるということで、住んでいるかたがたも産業がなくなってしまう、都市部にどんどん人が出ていくのではという危機感には常に持っています。

農業を振興している部署として申し上げますと、地域でも農家の皆さんに活躍していただきたいですし、地域としても農家の方々と共に地域を盛り上げていっていただきたいと思っています。市民フォーラムとか市民活動というと、市街地に焦点が当たりがちですが、市としましては、しっかりと郊外部、田園地帯も視野に入れて産業振興を盛り上げていきたいと考えておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

産業観光部長のお話が出たところで、休憩にしましょう。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

それでは10分休憩ということで、換気をさせていただきますので30分まで休憩といたしますのでよろしくお願いいたします。

～休憩～

○阿久津委員長

それでは休憩を終わりにしてさっそくはじめます。

○参加者

緊張しています。私、こちらに来て4年くらいで、小山市の中がどうなっているかよくわからないですが、小山市の広報を拝見して「田園環境都市、自然に囲まれてゆとりを持った生活ができる」のイメージは賛同しています。

これからは人口減が良く言われて、小山市も人口が減っていく予測になっていたと思います。その中で、生井地区のほうは非常にいいお米がとれると有名ですが、他の地区含めて農業が維持継続できるか心配しております。ほかの地域では、耕作放棄も出ているようですので、従来の農業から新しい農業、小山市でとれたものをこの中で、活用したりとか、利用したりとか、将来像が万全ですよという状態なのか、非常に不安を持っている。

市街部の方については、喜沢に住んでいるが公園もあまりなく、中でコミュニケーションをとるような場所がありません。公園ができないか協議させてもらっている。総合運動場など広い公園があるが、せっかく思川沿いにつながっているので川を活かしながら、もっと遊歩道みたいに、公園と公園を繋ぐとか、公共機関を使ってネットワークするとか、歩いていてとか、走っていてとか、電車乗っていて、楽しい環境があってもいいのではないかと。ただ、小山市のまちの規模からいって、わかりませんが、できるといいなど。

また IT スキルが非常に要求されている中、変化している中、IT スキルを、世代を超えて学びなおしができるような支援を大学と連携するとか、やっていただけるといいなど。

最後に、小山市のホームページもっとわかりやすく、いろんなこと調べやすくしてほしい。いろんなものが、PDF で貼り付けていたり、どっか行きついたら電話してくださいと、できるだけ情報を分かりやすく取り出せるように、してほしいなど。

○阿久津委員長

ありがとうございます。副委員長、農業でいかがでしょうか。

○佐藤副委員長

さきほど話された海老沼委員さんが、小山の最南端の生井地区ですが、私は小山の最北端の豊田地区・小宅に8年前に引っ越してきました。理由は、小宅の風景が気に入ったからです。

前々からやってみたかった家庭菜園や農業に関わりたく引っ越したが、ハードルは、最初は高いと思いました。

行政の方に新規就農のことを聞きに行っても、ここの課ではなく、こちらと教えていただきましたが、そこで話したあと、県に行かないといけないとか、そもそもご両親は土地をもって農家でしたとか。両親は会社員ですので、アウェイ感満載でした。

新規就農は、結局は、土地を持っているかになる。農業やりたいから、農家になりたいってすぐにできることではないことを、国や市を通すと、少し難しいと見えてきました。

ただ、行政を通さなくてもやりたいことは、やればいいんだと思って、今、野菜を育てて販売できるまでしている。

土地を紹介できない行政が悪いという方もいますが、ハードルは高いです。一会社員が、農業に携わりたいとか、自然と触れ合いたいとか、そういう方も、すぐに参入できる部門ではないです。

だめでもいいからちょっとやれる環境があるといい、もうちょっとサクッと中に入っていけるようにすればいいのかと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。これにたいして、またはほかにもご意見はありますか。

○平野委員

私は桑地区に住んでいまして、桑地区では地域の方が、NPO 法人元気フォーラム桑という団体を立ち上げた。

そこで、地域で使っていない農地を借りて、地域の高齢者、時間がある方を集めて、えごまを栽培してえごま油を販売したり、そのほかじゃがいも・たまねぎを作ったり、出荷したりして

います。桑の実・桑の葉を使った商品を開発して、桑の実ワインなど、ブランド化しようと、地域でNPO法人を立ち上げ、地域の高齢者を使って農業を盛んにしようと活動しています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ほかにもご意見はありますか。

○参加者

要約筆記通訳派遣について意見を出しています。

私の実家は農業で、父が死んで10年になります。私が仕事を辞めてから、父の残した畑を耕しています。3反ほどです。私の隣も空き地です。娘さんのところに引っ越したり、集団農業で失敗して、ハウスが無くなったりとか。

私の地域は、桑地区鉢形です。住まいは扶桑です。仕事がコロナで少ないので野菜を作っています。地域の子もたちやお年寄りに、いろいろ体験をしてもらおうと、社会福祉協議会と相談をはじめています。

要約筆記についても、知ってほしいですが、過疎化というか、実家のあたりは世帯数も減って、農家の後継者がいません。16軒ありましたが、実際に後継できているのは2軒です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○参加者

私は、観光業をやっていて、「小山どこがいいんですか」と聞くんですね、一番目は空気がいい、2番目は野菜がおいしい、3番目は水がいい、交通の便がいい。大事なものは農業と都市と地域交流をうまくすることと思っています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。副市長いかがですか。

○副市長

さきほどから皆様のご意見を聴いていて、耳が痛い発言が多いと思っています。私も、ずっと市役所職員をやっていて、その後現職ですが、若いうちは気が付かなかったが、だんだんこういう立場になってくると、自分で情報を発信しているつもりですが、どうやらそうではないと感じます。

駅のお話もお聴きして、サクラミチのデジタルサイネージなど、手探りでやっていますので、いろいろなご意見を聴かせていただきたいですし、ありがたいですし、新鮮な気持ちで聴かせていただきました。

市役所は、それぞれの部はいろんな施策を行い、計画をもっているが、皆さんが知っているかと言われると、ほとんど知らないと思っています。まず、そこに力を入れて、ホームページの問題、広報の問題等、広報良くなってきたと言っていますが、ホームページについては、ご批判がほとんどと思います。

皆さんが欲しい情報を、もっと丹念に出せるような、出したうえで、今いただいているよう

なご意見を聴かせていただければと思っています。

今の話に戻りますと、小山は、水がおいしいとおっしゃりましたが、造り酒屋さんがたくさんあります。その証明と思います。

ブランドを認定していますが、もう少し都会とのつながりも目を向けていく必要があるのかなど。あわせて、小山市役所としては、足元をみてみたい。市民の皆様にご意見を伺うのはそういうことと思います。皆様がどんなことを考えているか、どんな情報が欲しいか、どんな交流がしたいのか、聴いてまいりたいと思います。もう少し、長い目で見ていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

副市長ありがとうございます。9番のご意見の方いかがですか。

○参加者

私は、スクールゾーンに安全なおーバスを入れていただければありがたいとの意見です。私は間々田小のPTA本部を9年間やらせていただいています。

9年間在籍していますと、危険なスクールゾーンと私は9年間聞いています。民間の建物が劣化していて、建物の破片が落ちている。ここには、小学生が歩いています。地震があった後見に行きましたら、レンガが落ちている。間々田出張所がしらすぎ館に移動したことにより、跡地に保育所ができています。その保育所のところでも、踏切を車が一台くらい通れるところを子どもが通っているが、そこに保育所の送迎が通ることになったり。

間々田の間中大橋をダンプがいっぱい通る。ダンプが通るために、先日接触事故がありました。PTAの保護者から、「助けてくれないか」と連絡があり、私が小山警察に連絡したら、横断歩道をひいていただいたり、物理的なことはできる。

地域の育成会と連携して、危険な運転があったら言ってくれと話をし、今年も警察に2度ほど行っていただいて2台の車に注意していただいたとかはできます。ただ、保護者にアンケート調査をしますと、千駄塚古墳と6丁目、栗宮が一番危険だと調査が出ています。こういったところは、道路が狭いとか、そういう場所です。

どうしても、おーバスを利用した方法がとれないかなど。マップを見ると、スクールゾーンにおーバスが通っているのにもかかわらず、タイヤの関係で乗れない状況です。タイヤが解決すれば、保護者も利用できますし、本数が増えれば、学童にも届けられたり。このスクールゾーンから、住み良いまちづくりができると思っています。

アンケートで反対の意見は、16しかありませんでした。あとは、みんな賛成、こうしてもらいたいという意見があります。

ぜひとも、1週間でもよいので、テストというやり方が間々田小学校内でできれば、うれしいと思います。よろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。おーバスの活用の仕方が今後課題になるかとも思います。

○参加者

前回は参加させていただいて、交通機関の充実を求める声が多かったと思っています。小

山市でバスが奮闘していると思います。評価されていると思いますし、評価したいと思います。

いろいろな活用の仕方、改善点があると思う。ある程度行くと行き詰ってしまうのではと思っています。というのは先日も乗って見たが、混雑するものすごく混雑する、待っていてもこないとか。改善するために、バスの専用道路をつくってみたらどうか。さきほどからいろいろ意見伺うなかで、バスだけでなく、人の専用道路とか、自転車の専用道路とか、それらを含めて、インフラの大きな整備の方向をそう目指してはどうか。

小山市の総合都市交通計画がありますが、公共交通機関をどうするのか行き詰っていると、私は読み取りました。改善するためにも、バスの専用路線を作ってみるのはどうか。場所としては鉄道線路に沿った東西南北、それと高岳線。それを中心に考えて。場所によっては、鉄道の廃線も近い将来あるのでは。コロナで大幅に乗っている人が減っていますし、増えることは考えられない。廃線の利用も含めて考えたらどうかなと思っています。極端な意見かもしれませんが、20年などスパンを見ないと、バスを発展させてみんなが利用しやすくなることはできないかなと。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ほかに交通手段、ご意見あるかたいらっしゃいますか。

○参加者

私の意見としては、16番の意見です。バスが活用できないか、もっと便利にならないかが、小山市に対して一番言いたいことのひとつです。

通勤時間の本数増加、歩行者・車両運行を妨げないバス停設置についてなどです。さきほど、バス専用の道路を作ってはとご意見もあって、あったらいいなと思います。そのためにも、お金が足りないというのはあって。バス利用者が増えればお金も増えて、いろんな整備がしやすくなると思います。

利用者を増やすために、いろいろ行っているLINEの連携とか、LINEで定期券ができるようになったと、小山に住んでいる同僚に話したら「知らない」と言われまして。回数券の開始を私、すごく楽しみにしてまして、はじまったらどんどん使いたいと思っています。周知する、広報する方法を何かないかと思っています。

普段車で通勤している同僚は、バスがどうかは知らないですし、私はなぜバスを知ったかは、駅にいろいろ掲示されているからで、「回数券はじまりました」のポスターを貼ってありますし、バスの路線表も駅にあり、とって見て知りました。

駅を使っていないと、バス不便だよねで終わっていて、車通勤の方も見られるような、スーパー、ハーベストウオークとか、車で人がいっぱいいる場所にもバスに関する情報を周知できるといいと思いました。バスももっと便利になるといいと思います。

○参加者

バスについて、ルートを含めて利用者が多いルートや時間帯等に対する対応はされていらっしゃるのでしょうか。例えば利用が多い時は、本数を増やしているとか、お聞かせいただけると。

○須郷都市整備部長

皆さん、いろいろご意見いただきありがとうございます。いくつかお話させていただきます。まず、担当部署といたしましてはどんどん便利にしていきたいと思っています。

現状についてお話いたします。おーバス 14 路線あります。駅中心に放射状に出ています。郊外はデマンドもあります。年間経費 3 億円くらいかかっています。そのうち収入は、1 億 5 千万円くらい。半分市から補助を出しています。市民一人当たりで換算すると、補助額は、800 円くらいです。同規模の市の全国平均でみると、市民一人当たりの補助額は、1,500 円くらいのところが多いので、それに対しては効率的にやっています。

ただ、この枠を増やすには、皆さんからいただいた税金等を使って運営していますので、市内の合意形成を図りながら進める必要があります。すぐには改善できないですが、徐々に便利にしていきたいと思っています。

いま進めている工夫としましては、大きく2つです。一つは、新市民病院線ですが、6時から10時くらいまで、小山駅の新幹線の発着ダイヤに合わせて1時間に1本運行しています。

二つ目は高岳線で、利用者が多いことや、高岳の会社、高専も使っていただいているので、利用状況を見て、平均的にはおーバス1時間に1本ですが、1時間2本運行に増便しています。こちらは法的な制約もありますので、年2回ある公共交通会議の中で、増便を決定しています。

バス関係についてはいろいろ、LINE もそうですが、どこで何人乗ったかのデータもすべてとっておりますので、利用状況みながら改善させていただいております。

間々田のお話で力になればと思いますが、各路線1時間に1本くらいで、高岳線は需要がありましたので2本、ハーベスト線は、ハーベストウオークに協力いただいて、1時間3~4本出していますが、普通のところは1時間1本くらいです。

間々田線に限っていいますと、年間5万人くらいバス1台で利用があるのですが、ダイヤを変えるのはいまの利用者様がいますのですぐには難しいと思っています。需要に合わせるためには、もう1台導入ということで、バスの手配もありますので、すぐにはできませんが、そういう声を集めて、改善できるところは改善していきたいと思っております。どこまでいけるかは、検討してまいります。以上です。

○浅野市長

おーバスをもう少し増便してもらいたいとか、駐車場整備が終わってからですが、市役所に入る路線を作ってもらいたいとかあります。答えていく必要がありますが、一方で道路を整備してもらいたいという意見があり、歩道がないということで通学路として非常に危険。車の渋滞のことなどで、右折の車線を作れないか、車線を増やせないか、開通を急げないかなどもある。

おーバスで公共交通を充実させることは、自動車を使う人を減らしてもらいたいということにつながります。道路を便利にすることは、車が使いやすくなり、車を使う人を増やすことになる、非常に全体的に調整するのは難しいところがあります。

先日も、駅西口のワークショップでは、西口をウオーカブル、歩けるまちにしてもらいたい、でもそこに来るためには、遠いところからは車で行かないといけない、駅西口のそばに駐車場、できれば高層ではなく、平場のところで無料の駐車場、大きな駐車場がないと来られないなど。矛盾しあう、相反するような希望があり、小山市全体でどのようにして矛盾がなく調整していくか、ほんとに難しいところがあります。

道路整備自体が、いままで予算投入が十分でなかったのか、新規・拡幅ができず、メンテナンスの面で遅れてしまって、劣化が進んで穴が開いたりなど補修を急がないといけない。

社会資本整備、インフラ部門で小山市としては、もう少し力を入れてこなければならなかったのかな、しわ寄せがきている。特に交通体系については、全体の方針が固まらずにバラバラに行うと状況がよくなりかえって、悪化することもある。市内での検討しながら、市民の皆様の意見を聴きながら、21世紀にふさわしいカーボンニュートラルに沿う方針にしないといけないと思っています。

○阿久津委員長

ありがとうございました。

○副市長

おーバスの話題について、都市整備部長が申し上げたとおり、非常にありがたいと感じております。

おーバスがスタートする前は、小山市内に民間のバス路線がたくさんありました。それが車社会の進展に合わせて、淘汰されてなくなってしまった。その代替、交通弱者に対する政策として、おーバスをはじめたのがスタートです。

スタート当初は、バスを走らせて税金を使って、空気を運んで何をやっているのご批判をずいぶん、頂戴いたしました。しばらくそれが続きました。

最近、新しい実験をしていただきたいとか、もっと便利にしていきたい、使っていただけるような意見を、たくさんいただいけることは、我々市役所の担当職員はありがたいお話と思います。

市長が申し上げた通り、カーボンニュートラル、高齢化も忘れてはならないと思います。交通弱者が増えていくと思います。もう少しお時間いただくことにはなりますが、おーバスをもっと皆さんに使いやすい、交通弱者の方に寄り添えるような形に検討してまいりたいですし、ご意見をいただきましたので、担当部で検討することにはなりますが、励みになるとと思いますので、お時間いただければと思います。

○参加者

続けての発言になります。私の住んでいるところの目の前に水戸線が走っている。開業130年くらいたちますが、私も60を超えていますが、まだ2回しかのってない。

小山市内では、水戸線は小山駅だけです。ほかに駅はないです。ほかの方も、目の前にある意味邪魔者があるだけで、役にたってない。たぶん、小山市民の多くの方はそうだと思います。

そういうものを見直しながら、改善できないか。お金をたくさんかけることがいいことではなく、考え方を変えていかなければいけないと思っています。

さきほど、自動車の専用道路の話をしました。おーバスの専用道路です。なにがいいかと言えば、4m 四方の空間があれば、バスが通れます。幅4m、高さ4mがあれば通れます。小山の駅の構内を東から西、西から東に直通で行くことも可能と思います、私は。

専用道路であれば自動運転、電気自動車などの実験ができる。地域の中、まちの中でいろいろなことができる。おーバスの専用自動車道路、自転車の専用、歩行者の専用を工夫して作っていく、方向性を出していただきたいと思っています。

○参加者

8番の意見です。8番の内容については、市の担当部から先週ご説明をいただきましたので、内容が分かりました。

せっかくですので、ひと言だけお話をさせていただきます。

交通行政、道路行政については、市長さん副市長さんのお話で、市のほうもたいへん頭を痛めてお考えと、十分わかりました。

それから、生井とか飯塚とか遠方の農村部の方は、間違いなく、おーバスよりマイカーだと思えます。まちの中でも住宅を見ますと、1つの家で車が3台、4台とお持ちの家もたくさんございます。一人1台ということです。ということは、小山は車社会。まちの中全体を見ましても、何十年、昔の町がそのままリフォーム、改造しながら現在に至っている。市役所は新しくなりましたが。そんな状況なので、道路が狭い。専用レーンのお話もありましたが、1車線の道路で専用レーンということは車がつながると言わんばかりの政策になろうかと思えます。

どうみても、2車線は50号線しかない。市内を2車線化するのは、セットバックでは間に合わなくて、相当拡幅のための買収費用も掛かる。来年、再来年ではなく、20年30年先の実行になろうかと思えます。

ただ、今日ひと言だけ、まちの発展で、さきほどから小山駅の問題がありますが、小山駅の地下に、駐車場と西から東へのアンダーラインをつくることで、中央に車が集約もできるし、資本原資が、国の支援、県の支援、JRの支援、小山市の企画力である程度カバーができるのかなど。かなり大きな小山市の中央部の改革が可能になり、小山の発展、ひいては今日のテーマの「私の住みやすいまち」につながるのではないかと思いますので、ご提案いたします。

○阿久津委員長

まちづくりに関して、建設水道部長いかがですか。

○古川建設水道部長

よろしくお願いたします。

道路について、ひとつお話をさせていただきます。小山という町は駅の東口をみていただければわかりますが、ほとんどが区画整理事業によって生み出されたまちと言えると思います。

市外から来た方、Uターンしてきた方には、わからないと思いますが、昔、駅の東口は農村部でした。農村集落が点在していることでした。それをひとつずつ区画整理していきました。なんで道路が狭いのかというお話になりますと、区画整理の計画をするときに、小山市がこんなに発展すると思わなかった。こんな大きなまちになるのであれば、はじめから大きな道路を作ったのですが、小さいまちだったがゆえに区画整理事業の中で大きい道路が作られなかったというのが、ございます。

それは、20年、30年先のことを考えていなかったから、と思います。これからでも遅くないので、20年30年、50年先を見据えたまちづくりが必要になってくると思います。

○阿久津委員長

ありがとうございました。まちづくりに関しては、ここまでにして、最後のテーマ「市民生活」にいきます。まず、委員の皆様からありますか。

③「市民生活」

○平野委員

自治会に関して、私は自治会のイベント、行事など参加しているのですが、40代で参加しているのは、ほぼ自分しかいない状況です。50代も少なく、実際動いてくれるのは、60代、70代が一番元気で動いているような自治会です。とても参加な動きはしていますが。だんだん、世代交代とか、若い者がいないので動きづらいというのが、現状として出てきている。この先、10年、20年と考えると、引継ぎがうまくできないと、地域としても厳しいのかなと、少し心配になっています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。佐藤副委員長なにかありますか。

○佐藤副委員長

「市民生活」は目につくことが多いです。例えばゴミ問題や挨拶。

お伺いしたいのが、8年前に移住してきた際に、小学生はもちろんのこと、中学生、高校生の子供がいきなり、朝「おはようございます」と言ってきました。それがすごくショックで。住宅密集地から引っ越してきたのもありまして、自分は小さいころから大人に「おはようございます」と言ったことがない。これをお伺いしたいのですが、小山市は徹底しているのか、うちの地区だけなのか、お答えできるかたがいたら。高校生もできるのはすごいです。

○参加者

私、小山に来て4年目です。正直なところ、現役を退きまして、朝会社に行って「おはようございます」とか挨拶が少なくなりました。散歩していると見知らぬ人が「おはようございます」と言ってくる。ものすごく気持ちよくなりまして、気が小さいですが、自分から「おはようございます」と言います。たまたま、小学生とすれ違くと、「おはようございます」と言ってくれる。それが気持ちいいです。

なんかのイベントでもやってくれないと挨拶できないかなと。挨拶して、みんなが自然と挨拶できるようになると、小山に来ていて良かったなとなるのではないかと思います。

できれば、強制的でもいいから、後ろから押してくれて挨拶しなさいよと言ってくれると、親しみやすくなるような気がします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○阿久津教育部長

今の小山市の取り組みを説明させていただきます。市民ひとりひとりが日常生活の中で、挨拶を交わしていただくことにより、交流が生まれ、ふれあいと郷土愛をはぐくむ、豊かで心身共に健康で暮らしやすい小山を築くため、小山市あいさつ運動を、平成14年から推進しています。特に4月と10月に、小山市あいさつ運動強調月間として、市役所にのぼりばた設置、テ

レビ小山等でPRをしています。

さらに毎年11月に、小中義務教育学校児童生徒を対象にした、あいさつ運動啓発ポスター、標語に関するコンクールを開催して、子どもも大人もあいさつの大切さをあらためて考える機会となるよう、取り組んでいます。

また、青少年健全育成を推進する、小山市青少年育成指導員協議会でも、昼間・夜間にパトロール、巡回しておりまして、その際に、「愛の声かけ」ということで、挨拶や言葉をかける取り組みをおこなっています。

こういった取り組みによって、小中義務教育学校の子供たちも、自然とあいさつを皆さんとかわせるようになってきていると考えております。よろしくお願ひいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。私も知らなかったです。

○参加者

あいさつについて、大谷北小では朝登校の際に、三中の生徒が校門に立ちまして、小学生が来るのを挨拶して迎えることをしています。こうしたことで、子供たちもあいさつしやすいですし、習慣になって、大人や市民にもあいさつができるようなし環境を作っている。

運動会、文化祭のときに、登校の時校門前、PTAの方が並んで小学生に挨拶等を行っていますので、影響していると思います。

○古川市民生活部長

挨拶の関係ですが、ご近所で挨拶されると気持ちいい、その通りと思います。挨拶に関しましては、子供たちが中心に広がっていますが、実は安全・安心のまちづくりにも、たいへん挨拶が重要です。防犯につながる事が重要視されています。

悲惨な事件等多いですが、犯罪を起こす人たちは、必ず下見を行う。挨拶をされると、犯罪抑止につながると言われてています。

市内には、自主防犯パトロール隊が150くらい、自治会、PTAなどあります。定期的なパトロールのほかに「ながらパトロール」、市民生活をしながら、ぜひ声かけをしてくださいとお願ひしています。

さきほどの自治会活動にもつながりますが、地域の方がお顔が分かることは、安全安心なまちづくり、防犯につながります。ぜひ、皆さんから挨拶を広げていただければと思います。

自治会の加入率は、年々低下しております。会社を退職されたような方が、自治会を盛り上げてくださっていますが、現役世代の人たちは、参加したくてもできない状況です。

そのような中、育成会活動で自治会に関わっても、中学生になって、自治会の活動から子供さんが、参加できなくなるとはなれてしまうこともありますが、自治会活動は、さきほどの防犯上にも重要な活動ですし、地域の防犯灯、カーブミラーは、自治会で電気代含め行っていることを、まずはご理解いただき、ぜひ自治会活動に参加する機会をご検討していただきたい。

ただ一方、自治会に行っても、若い人たちの意見が通らないという実情も耳にすることがございます。自治会長様向けの研修会等をこれからやらせていただきたいと思っています。若い方々が、まちづくりに関心をもった意見がたくさんありますので、吸い上げていただきたいこ

とを、研修の場で、現在ご活躍の自治会の皆様にも、お伝えしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○参加者

私は、昭和56年に勤務の都合で小山に来まして、40年たちます。自分も80歳を超えまして、84歳になります。

班内15名いますが、ゴミステーションを1年ごとに交代で担当しています。当初はぜんぜん負担ではなかったですが、このごろ、班の方が連れ合いを亡くしたり、本人も体が動かなくなったり。ゴミステーションの管理を1年やらないといけませんから、非常に負担に変わってきました。

いまのところ何とかもっていますが、5年、10年たったらどうなるのだろう、ということで、たまたま私が住んでいるエリアがそうなのか分かりませんが、先ほどから子供さんのこととかいろいろありましたが、子どもの声も聞こえないですね。

限界集落というと極端ですが、日々の町内会活動も含めて、少し破綻してくるのではないかと、この頃不安を感じています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。どうですか、ほかの町内会のかた、今のお話にお答えできるかた。

○参加者

余計なことかもしれませんが、ごみ当番を1年間なさるのですか。

○参加者

そうです。10年か15年に一度回ってくる。というのは、ごみの集積場所を毎月変えるわけには。市の車きていただきますね。1年くらい通さないと。場所は決めないで、班内で1年ごとに交代しています。

○参加者

改善の余地がありますね。

○阿久津委員長

たいへん貴重なお話ありがとうございます。他にはあるのですか。

○古川市民生活部長

ただいまのごみの収集所の管理の件ですが、小山市では、平成8年10月に7分別収集が開始されまして、25年たちます。

分別が細かくなって、毎日のように何らかのごみの収集が行われている状況です。収集所の管理に関しましては、市内に2,940ヶ所の収集所があって、管理方法は自治会によって様々です。いま、ご意見いただいた1年間というのは、スパンとしては長い方の例と思いました。通常は、1週間や2週間、短いところは1回ごとに、清掃当番をしているところが多いです。

ただ、それは地域の実情に応じて、たぶん住宅街などで、ごみの収集の場所を1か所に定め

られないような、状況なのかと思っております。1軒の方の前にずっととなるとご理解いただけないので、苦肉の策として、1年交代になったのではないかと思います。管理もその方が1年みるとなるとご負担かと思いますが、管理方法に関しては、市から申し上げるのはお願いしている関係上申し上げにくいところです。

ぜひご利用の方々と、皆さんが、スパンが長く大変とのことでしたら、改善、変更していくとか、実情に合った形に変えていくのも、方法なのかなと考えております。

いろんなやり方があり、市民の皆様のご協力があり収集はできていますので、お困り、どうしても折り合いがつかないこと等ありましたら、環境課にてご相談をお受けできますので、別途お問合せいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○参加者

昨年の市民フォーラムから3回参加させていただき、皆さんの意見を聴かせていただきました。本日もたくさんの素晴らしい意見があったかと思います。マクロ的な話をすると、いまの皆さんの話のとおりいろいろな問題があると思います。

ただ、この市民フォーラムもそうですが、市民の声を市政に反映するための仕組みづくりを、小山市がしていることを、知っている方がどれくらいいるのかと感じています。

この1年半ほど、なんとなく小山市が変わってきたなど、実感しております。ホームページに関しても、市民の意見に対する回答がありますが、フィードバックがうまくできていないのか、思っています。

昔から言ってもどうせ変わらないだろうとか。そもそも変化している小山市を知らない人がたくさんいるのではと分析しています。

また、ここにいる委員の方とか、参加しているほとんどの方は、自営業の方、自分から意見を言える方が多いのではないかと思っています。

ただ、人口比率からいうと雇用されている人が、大半を占めていると思っています。

自営の方も、雇用されている方でも大企業の方、中小企業の方、働いていない方とか、学生とか、それぞれいろいろな意見があると思いますが、それぞれの立場で市街地と農村部では全然環境が違う、年齢も考え方も違うと思います。

真の問題や現状を知るためには、一人でも多くの意見を聴けることが、重要と思っています。そのためには、この素晴らしい市民フォーラムをもっと有効にできるような発信方法ややり方を検討できればいいと思います。

昨日、たまたまある方のお話を聞いて、コミュニケーションを通して、お互いを理解するお話を聞きましたが、やはり一方通行ではなくて、いろいろな広い人の意見交換がもっとできるようになると、良い小山市になっていくのではないかと考えております。

○阿久津委員長

貴重なご意見ありがとうございます。今日やったことも少しでも多くの人に伝わるように、われわれも取り組んでいきたいと思っております。

○坪野谷総合政策部長

本日皆様から、運営委員の皆様からも、いろんな意見が出ている。これまでも、いろいろな意見はあったのだと思います。ただ、その意見を吸い上げる、どう吸い上げられて、またそれがどのように市政に反映されてきたのかという、フィードバックが足りなかった。そもそも PR が皆さんに届いていたかなどの意見も出ました。今後それらを踏まえて、取り組んでまいりたいと総合政策部として考えています。

浅野市長に変わって、この市民フォーラムを、いの一番に行う施策としてはじめましたが、この思いが、今までの市の職員も含めて市政は、市民のためを思ってやっていたのですが、それが市民の皆様の思いと、フィットしていたかという疑問があるところがあります。

当然、われわれ指摘を庁内でも受けていますが、それを近づけていかなければいけない。そのために、一番大事なものは、今日皆様からご意見が出ている PR、お知らせをして、説明をして、ご意見をいただいて、それをどうしたか、どう考えているかということをフィードバックしていく。これをやっていかないといけない。

小山市の将来を見据えた計画が、小山市総合計画で、今の計画は昨年度から第8次の小山市総合計画を策定して本年度も運用しています。

総合計画を作る過程で、有識者の方や市民の方、今までもご意見は頂戴していますが、その声をもっと広く聞かなければいけなかったのではないかと考えているところです。

それで今、市民フォーラムをはじめ、まちづくりプランを作る際のワークショップなどが、行なわれている。これからさらに、市長のもとで、田園環境都市のまちづくりを進めていくためのプラン・ビジョンづくりに関して、今後取り組んでいくこととなりますので、さらに地域の声をもっと拾う、各地域の違いに着目して、それらを踏まえた、まちづくりの方向性を定めていくことになると思います。

その際には、皆様も地域でぜひ、手を挙げていただいて、ビジョン作り等にもご協力いただけるとありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございました。それでは最後となります。

○参加者

さきほどの市民の声を吸い上げるということで、今自分が関わらせていただいているイベントがありまして、小山総合公園で、毎月1回「おやまいち」という市を行っています。

小山市内、市外、いろんなお店を呼んでテント出店をしていただいている。徐々に開催規模が大きくなって、今、数千人規模のお客様が来場されています。

昨日も実施して、浅野市長にも見に来ていただきました。その中で、自分が思っているのが、お店が出店するだけでなく、例えば行政のブース、テント出店をぜひやっていただけないかな。

そこで何をするかというと、アンケート調査や声を聴くなど。もちろん人員の問題などあると思うのですね、市の中で検討していただいて、行政の方、職員の方でも積極的にイベントに関わりたい方が実はいらっしゃるのですね。立候補制でも挙手制でもいいので、ぜひイベントに出店していただけないかと思っております。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○浅野市長

昨日寄らせていただいて、公園を、民間活力を使って活用していこうという事業。昨年度からはじめています。公募をして応募していただいた方に、今年は小山総合公園、城山公園の整備がおわったら城山公園。総合公園の場合は「おやまいち」を月1回やっていただいています。

昨日は60店舗くらい出ています。最初が10数店舗くらいでしたから、半年ちよつとで4倍くらいの規模になった。テイクアウト系の飲食もありますし、ストレッチ、アクセサリー等様々なものが出ていて、フリーマーケット的な店もあります。

子供たちに対するサッカー教室など様々なイベントと併せて行っている。総合公園に今まで遊びに来ていた人にとっても、公園の新しい魅力が開かれたような、ぜひもっと充実したものになるといいのかと思いました。

いろんな形でネットワークが広がって、行事は出来る様になったと思うが、小山市は素材がいっぱいあるのですが、繋がるのが苦手なのか、それぞれが、個々で行っている。それを全体でネットワーク出来る方がいいし、行政も自然な形で、関われるような。

今までどうしても、行政がいろいろ企画して枠を決めて、そこに民間が協力する形が多かったです。今回は、民間活力の利用で、民間が主導でやっていて、そこまで広がっている。

その上でも、行政にも関わってもらいたいというのが、ご意見だと思います。これからさらに充実したものにしていくため、行政がサポートして関わる必要があると、思います。新しい関わり方、市の職員が職員としての仕事というよりも、ボランティア的、自主的に行事に参加したいというお話でしたので、できるようになるといいのかなと。

もちろん、行政の仕事としての、きちんとした情報発信の場として出店も考えないといけないと思います。新しい行政と民間の関わり方を模索できればと思いました。ぜひよろしく願いたいと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。確かに小山市たくさんのイベントありますが、最近は行政と一緒にあって、M1プロジェクトなど私も行っていますが、たくさん関わりがあってどんどん巻き込んでいければと思います。

○参加者

都市生活者向きの話になりますが、コロナ禍で東口のマンションに引っ越しをしました。マンションの中で、誰が住んでいるのか分からなく困っています。私、理事もやっていますので、理事会でもそんな話をして、どうやって、コミュニケーションしていくか話しています。

うちのマンションも小山市の報告を見させていただくと、市内が6割、市外が4割の構成になっています。市外のかたもっと分からないのではと感じています。

まちを知る、地域を知るといのは、人を知ることだと思います。自治会とのつながりなのか、周辺のマンションなのか、地域やイベントとのつながりなのか。いろんな繋がりがあると思いますが、うまく使って、まちづくりができればいいのかと思っています。

隣町の高校生に、いつもまちづくりはひとづくりと話をして、人を知ってそれでつながったら、何か新たなものを生み出していけるといいよと言っています。

自分も小山に住んでいますので、小山でそんなところが出来ればいいなと思っていますし、サードプレイスのようなものがしっかり基盤として整っていくと、都市と田園の交流とかいろんなことがつながってくると思っています。そんなところを考えながらお話を聞かせていただきました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。私は薬剤師ですが、このコロナ禍の中で、社会的フレイルというのは、コロナ禍で、大丈夫だったらしいです。Zoom などいろいろな IT が出て。ただ、精神的フレイルが多くなったらしいです。家にこもって外の人と触れ合わないことで。

これから一番心配されているのが、身体的フレイル。やっぱり体の衰えは、コロナ禍の後、ポストコロナとしてやっていかないといけないこと。

今のお話は参考になります。コミュニケーションの場に行くことは大事になってくると思います。

○参加者

私、いま小山市内の企業に勤めているのですが、引っ越してすぐまでは、本社が横浜のため、横浜市と都心部に毎日通勤をしていました。半分リモートワークで、どこかで打合せでこちらに戻ってきたときに、横浜とか都心部ですと、オープンスペースまたは開かれたコミュニティスペースがありました。そこで仕事をしていると、隣で同じ仕事をしている人とのコミュニケーションが生まれたとか、そこで新しいビジネスの発展があったり、農村部と都市部という話もありましたが、逆にそういう開かれたスペースが小山にはないなと感じました。

引っ越した方ほど感じるでしょうし、都心部との地域差もひとつと思いますが、せっかく市役所が出来て、市役所の中にオープンスペースができないかと、わくわくしていました。

実は、私サクトおやまという市民チームに参加していますが、その中でいろんな女性がそれぞれの思いを抱えているのも知ったし、そこに自分から出向くハードルがあるかもしれないのと、あわせてちゃんと場所さえあれば、受け止めてくれる人が、誰かしらそこで話せる場所が必要ではないか。

それと、大人だけではなく、こどものサードプレイスもあると、地域との関わりの拠点として広まっていくといいなと思いますので、ぜひ私も同意したいと思いました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

○参加者

お隣の方のご意見を聞いてそうだなと思います。前回のまちづくりワークショップに参加させていただいたときに、小山駅の2階がなぜないのだろうと話をしました。1階があって、3階に改札口があって、2階はエレベーターの階はあるのに、閉鎖されているのはなぜなのでしょう。

先日、小山に生まれ育った方とお話していたら、知らないうちに無くなっていたとおっしゃっていて、特に事件があって封鎖されたのではないなと分かりました。

場所としては、どこかしらにあるので活用して、サードスペースとか、コワーキングスペース

とか、活用できる場はあるのではと思いました。

○浅野市長

先日のワークショップで、アドバイザーの方がまとめの中で、話していたのは、ロブレが商業施設だったが、逆転の発想で、コミュニティセンターのような場にしたらどうかという話がありました。

昨日時間があり、ロブレを見たのですが、ワクチン接種が終わると人がいない。

今まで、商業施設を前提に考えてきました。これからのロブレは、前と同じ商業施設として難しいのであれば、市民の方が求めるような、オープンプレイスとして利用の可能性はないのか、コミュニケーションが生まれるよう繋がれる場所としての利用はできないのか、検討しなければいけない時期に来ていると思います。

コワーキングスペースとして、駅のすぐそばで、ロブレは、立地的にはいい場所と思います。副市長のご意見も聞いてと思います。

○副市長

ロブレを管理している都市開発の立場でお話いたします。

ロブレは、小山市が持っている床部分がありますが全てではございません。もともと、土地をお持ちの方が、土地を出し合って、建てたビルでございます。もともと持っていた権利に応じて、今のビルに対しても権利を持っています。

スタートが商業ビルで、できた当初は話題性もありまして、駅ビル VAL とロブレと一緒に集客がありました。だんだん車社会の進展とともに、郊外へお客さまが持っていかれ、駅前が空洞化している。結果、皆様望むわけではないのですが、儲からないのでお店がどんどん出ていくというのが、今の構図です。

それを、商業ビルとして再生していこうという小山市の方針があったため、今までテナントを誘致してきたが、それだけでは立ち行かないというのが私の感想です。

前回の取締役会の中で、商業だけにこだわるだけでなく、他の職種、例えば事務所、教育機関、福祉施設などあらゆる分野に出店を募っていきたくと、取締役の皆様にお話をさせていただき、おおむね否定的なご意見はいただきませんでした。

これから作戦を立て進めていきたい。年度が変わって取締役会だけではなく、株主総会もございまして、それに向け頑張ってもらいたい。コワーキングスペースに目を向けないわけではないですが、都市開発、小山市が直接というのはハードルが高いですので、そういう業態の方を見つけていきたいと思っております。

一方でロブレの出店者の中に、同じ業態の方がおります。そこの競合もあります。全部がコワーキングスペース、世の中がすべて在宅勤務に変わるか分かりませんので、思い切って踏みだせない状況です。ただ、そういったスペースも含めいろんな方向性を模索していきたいです。

VALとお互いライバル関係でした、お互いのイベント等のPR活動をやってこなかったです。そこは、あらためようと、VAL と話をさせていただいて、ロブレのイベントのポスターを駅ビルに貼らせていただくとか、駅ビルのイベントをロブレに貼らせていただくとか、大事だと思いますので行っているところです。

もう少し成果が出るまで、頑張ってもらいます。

○阿久津委員長

ありがとうございます。お時間になりました。事務局にお返しいたします。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

それでは、長時間にわたりありがとうございます。閉会にあたりまして、最後に浅野市長からご挨拶をお願いいたします。

○浅野市長

3時間にわたり、最後まで活発にご意見いただきまことにありがとうございます。3時間もあ
るイベントですと、普通は眠くなる方がいらっしゃると思いますが、皆さん目がらんらんとしていて、
こちらがプレッシャーを感じるくらい、熱心に議論されて、冒頭、楽しい、面白い、意見交換にし
たいとお話させていただきましたが、私は私なりに十分楽しませていただいたと思っております。

楽しませていただいたという言葉自体がふさわしくないのかもしれませんが、市民の方とざ
っくばらんに意見を交わすことが、できるかできないか、できるまちとできないまちとでは、で
きるまちのほうが、まちづくりが他人ごとではなく、自分ごとになると思います。

行政と市民、行政も構成する市民ですので、市民同士が意見を交換することは、まちづくり
の基本にしていきたいと思っています。今後とも皆様のご意見を受けながら、一緒にやってい
きたらなと思っています。

最後に、わたし、心配していたことがあり、ここにいる方のお一人に聞きたいのですが、実は
渡良瀬遊水地でだいぶ大きな火事がありました。そのそばは、最近コウノトリが 8 羽くらい飛
んでくる場所でした。火事の後も、コウノトリが飛んできているかどうか、生井のコウノトリ見守
り隊の平田さんに、報告を一言受けて、終わりにしたいと思います。平田さんよろしくお願いい
たします。

○傍聴者(平田氏)

紹介いただきました平田です。先日新聞にも出ましたが、朝9時ころ小さな、火が出た、バケ
ツくらいの大きさだったそうです。たばこではないかとの噂です。その火が15秒後には、150
メートル離れた先に、飛び火しました。見守り隊の一員がいる車のそばに飛んできて、すぐ逃げ
たそうです。事なきを得ました。

燃えたのは、渡良瀬遊水地の中の、8羽コウノトリが来ていますが、一番集まりやすい新川と
いうところですが、鷹見台のすぐ後ろです。瞬く間に燃えていきました。火が着いた瞬間に
LINE をいただいて、5分しないうちに行ったのですが、火の海です。

コウノトリは、ヨシの実験田、田んぼのようなところ、水気が多いところ、そこへ、6羽は飛ん
で行って、2羽は巣塔のほうに逃げました。良かったです。

仲間の身の危険を感じたと思いますが、2羽も火が着いているうちに実験田に飛んでいきま
した。コウノトリ8羽は、今元気です。

うれしい話なのか、確認してないですが、時々さらに2羽が来るようです。10羽一度に写真
を撮れば最高ですが、お見せできません。広い空中で10羽見えています。昨日、おととい、
雨の中と、雨が上がった後、風が吹いているときに、写真をどうしても撮りたかったです。手が

震えて撮れなかったのは残念です。

今まで親子4羽でしたが、今年も巣塔に2羽いますから、卵を産むのではと気がします。いい話を期待しています。以上です。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

ありがとうございました。それでは、最後に広報おやまの記事用に集合写真を撮らせていただきますと思います。参加者の方はそのまま、市長ほかの方は、椅子をもって前の列に並んでいただきますようお願いいたします。

何枚かとります。はいチーズ！

最後お席にお戻りください。皆様長時間にわたりありがとうございました。これもちまして、令和3年度第2回小山市民フォーラムを終了いたします。たいへんお疲れ様でした。ありがとうございました。